

河内長野市

上原地区 区画整理事業予定地内

分布調査報告書

1985・4

財団法人 大阪文化財センター

序 文

河内長野市は、大阪府の東南部に位置し、府下で希少な田園風景を残す落ち着いた雰囲気を感じられる都市であります。

しかし、最近では、大阪市域を中心とする京阪神経圏のベッドタウンとして、急速に変貌しつつあることも事実です。

一方、河内長野市は、その昔、高野山へ詣でる人々が利用した東高野街道と西高野街道が合流する街道町、宿駅として賑わったところでもありました。

田園風景や、丘陵地に緑を多く残している当該市域は、一方では、埋蔵文化財が良好に残されて今日まで伝えられている地域と言うことも可能であります。

本冊子は、河内長野市の委託を受けて実施した、河内長野市上原地区における区画整理事業予定地についての埋蔵文化財の分布調査報告であります。

今回の調査では、遺物の採集はなされたものの、あまり明確な埋蔵文化財包蔵地の確認は出来ませんでした。この様な地道な努力の積み重ねが、埋蔵文化財の保護、保存対策の策定に必要な不可欠なものとする次第です。

最後に、調査を実施するにあたって多大な御援助を賜りました河内長野市及び河内長野市教育委員会、並びに三日市遺跡調査会の関係各位に心から感謝いたしますと共に、今後とも、当センターの事業に一層の御理解、御指導を賜りますようお願い申し上げます。

昭和 60 年 4 月

財団法人 大阪文化財センター

理事長 加藤 三之雄

例 言

1. 本書は、河内長野市が計画している河内長野市^{うかつほ}上原地区の区画整理事業予定地内で行った分布調査報告書である。
2. 分布調査は、財団法人・大阪文化財センターが河内長野市の委託を受けて行った。
3. 本調査に要した費用の 822,000円は、河内長野市が負担した。
4. 現地での調査は、1985年4月17日～20日まで行い、整理作業を4月30日まで行った。
5. 現地での調査及び報告書の作製は、業務課長・泉本知秀、主幹兼業務第1係長・中西靖人の指導のもと、業務第3係長・国乗和雄、技師・松山 聡、江浦 洋が担当した。
6. 本書の作製は、本文を国乗、表・図を松山、江浦が担当した。
7. 本書の写真引伸しは、業務第1係技師の片山彰一が担当した。
8. 採集した遺物は第1～3表のようにまとめたが、小片が多く摩滅の激しいものがほとんどを占めたため、実測図の掲載はしていない。
9. 現地での調査には、三日市遺跡調査会より多くの協力を得た。記して感謝します。

目 次

I 調査に至る経過	1
II 調査方法	1
III 位置と環境	1
IV 調査の結果	3
V まとめ	5

挿図・付図目次

第1図 調査地周辺の遺跡分布図	2
付 図 遺物採集地点及び調査地範囲図	巻末

表 目 次

第1表 A地区採集遺物一覧表	3
第2表 B地区採集遺物一覧表	4
第3表 C地区採集遺物一覧表	4・5

図 版 目 次

図版1 A地区調査区端の水路付近、棚原窯跡群付近、A・B地区今池付近
図版2 B地区北城・C地区北城、B地区、塚穴古墳
図版3 C地区塚穴古墳北側付近、塚穴古墳南側付近
図版4 A-1地点採集遺物、C-21地域採集遺物

I 調査に到る経過

河内長野市都市整備部は、河内長野市^{うのたか}上原地区での区画整理事業を計画するにあたって、対象地域内における埋蔵文化財の存在の有無を確認するために河内長野市教育委員会と協議を行った。そこで河内長野市教育委員会は、1、分布調査が必要であること、2、調査担当機関は(財)大阪文化財センターに調査を委託されたいとの回答を行い、1985年4月16日付で河内長野市役所と大阪文化財センターは分布調査の委託契約を結んだ。

II 調査方法

分布調査は、第2図のように約17ヘクタールの地域を対象として行ったもので、現状は西半分が丘陵部の林地、中央から東側の多くは田畑となっている。

現地での調査は、林地では全面的踏査を可能な限り行い、田畑部では田畑1枚ごとの調査を行った。なお林地では落葉の堆積する地域がほとんどを占め、田畑でも季節柄、雑草の繁茂する所が各所に存在したために、遺物の採集できなかった地域も存在する。また遺物の採集できたで所は、林地は地点、田畑では個々の田畑に番号をつけて採集遺物の一覧表をつくり、整理を行った。(第1～3表)

III 位置と環境

河内長野市は大阪府の南東隅に位置している。奈良・和歌山との府県境には金剛・葛城の山地が広がり市の過半を占めている。市域の中央を流れる石川は、大和川の一支流として後背山地の水を集めて北流するが、調査地の上原町は左岸の段丘上になっている。また上原町は、南河内より和泉に抜ける街道沿いに発達した集落として知られ、現在も国道170号線が河内と和泉を結んでいる。

河内長野市内で知られている遺跡は、その多くが高野山に抜ける天見川沿いの所と、当調査地近辺の石川本流沿いの所に集中している。天見川沿いの遺跡としては、弥生時代後期の高地性集落と古墳時代前期の古墳が存在した大師山遺跡をはじめとして、古墳時代～中近世にかけての三日市遺跡や中世の石仏遺跡などが点在しており、山の頂部には南北朝の城跡とされる烏帽子形山城などの山城が多数存在する。また調査地付近の石川沿いには横穴室石室をもつ塚穴古墳、奈良時代の木炭窯と考えられる棚原窯跡群、平安時代の木炭窯と考えられる長池窯跡群、中世の遺物散布地の高向遺跡などがあり、他にも時期不明の菅大寺跡、総持寺跡の寺跡が存在する。

以上、河内長野市内には多くの遺跡が存在するものの、発掘調査が行われその内容が詳しく調べられたものは極めて少なく、未知の部分が多くを占める地域である。



- | | | | |
|------------|-------------|-----------|----------|
| 1. 茶臼木遺跡 | 8. 末広窯跡 | | |
| 2. 小山田2号古墳 | 9. 烏帽子形山古墳 | 15. 高向遺跡 | 21. 宮山古墳 |
| 3. 小山田1号古墳 | 10. 烏帽子形山城跡 | 16. 惣持寺跡 | 22. 金剛寺 |
| 4. 法道寺 | 11. 棚原窯跡群 | 17. 大師山遺跡 | 23. 石仏遺跡 |
| 5. 金胎寺城跡 | 12. 長池窯跡群 | 18. 大師山古墳 | 24. 石仏城跡 |
| 6. 古野古墳 | 13. 塚穴古墳 | 19. 片添城跡 | 25. 左近城跡 |
| 7. 河合寺 | 14. 菅大寺跡 | 20. 三日市遺跡 | |

第1図 調査地周辺の遺跡分布図(3/5) 国土地理院発行5万分の1地形図五条を用いた。

IV 調査の結果

調査地は前述のように丘陵地域と田畑地域に分けられるが、田畑地域は国道170号線に接する尾根状地形の所と、今池より北東方向に伸びる湿田を中心とした谷状地形とに大きく二分できる。このため、調査地を3つに区画することとし、丘陵地区をA地区、今池を含む谷状地形部をB地区、東端の尾根状地形部をC地区として述べることにする。(以下、付図・第1～3表を参照)

A地区

南西から北東方向へ伸びる尾根の東側斜面と、尾根より北西方向へ伸びる小さな谷地形及び谷地形をはさむ尾根文脈が対象地で、標高は140～172mを測る。尾根東側斜面の周縁部は段々畑となっており、果樹園や田畑となっているが、標高約150m以上の所は落葉樹・竹林等の林地となっている。

林地では、落葉の堆積や雑草の繁茂のために②・⑩の地点でのみ遺物を採集した。遺物は両地点とも時期不明の須恵器である。周縁部ではほとんどの所で土師器などを少量採集しており、北端の①の地点では染付などの遺物を多量に採集した。また、①の西側では瓦製の祠が存在した。

なお、⑦地点の田畑のすぐ上には河内長野市教育委員会で調査が行われ、木炭窯と考えられる棚原窯跡群が存在するが、今回の調査では近辺に現代の木炭窯は認められたものの、古い時代の窯跡は検出できなかった。

種類 地点	種類							備考	
	土師器	須恵器	瓦器	陶器	磁器	染付け	サマカ イト片		
1				6		25		4	銅銭1 (種別不明)
2		1							
3							1		
4	1			1					
5	2			2					
6	1			1		1			
7	1			2			1		
8	3			1					
9		1							
10	4	1				1			
11				3		2			
12	2								
13				2					
14	1								
15	1			1					
16	1								
17	1								

第1表 A地区採集遺物一覧表

B地区

今池と今池より北東方向に伸びる幅50～100mの谷状地形の地域で、標高は138.8～141.2mを測る。地元の話では、今池が掘られた明治時代初期頃まではB地区の北域部分に溜池状の地形が存在したらしい。しかし現在は段をもつ湿田となっており、葎の茂る休耕田も所々にみられる。

遺物は今池北方の湿田地域では、量は余り多くないがほとんどの所で土師器を主とした遺物を採集している。また今池内部の護岸方面では陶器類など江戸時代以降の遺物を採集している。

種類 地点	土師器	須恵器	瓦器	陶器	磁器	染付け	サヌカ イト片	瓦類	備 考
1	1						2		
2	2								
3	1			5		4		1	
4	24	1		1					鉄釘?
5	2								
6	9								
7	4			1					
8	8	2		5		1	2		
9	2			7		4			銅銭(寛永通宝) 1

第2表 B地区採集遺物一覧表

C地区

南西から北東方向へ伸びる緩やかな丘陵地形の地域で、標高は南西端で144.5m、北東端で139.3mを測る。多くは田畑となっているが、一部では家屋や植木園場の盛土が施されている。

国道沿いには、周知の塚穴古墳が存在し、横穴式石室の内部には多量の土砂が堆積する。この古墳は円墳と考えられているが、現在は方形に残存している。また墳丘の上部と石室の入口横には石造物や小さな祠が据えられ、後世に地元住民の手が多く加わっていることがうかがわれる。

ほとんどの田畑では、土師器、陶磁器、サヌカイト片など多様なものを採集したが、今池南東付近の⑧～⑩の田畑では土師器、サヌカイト片の採集が特にめだった。また特殊なものとしては北端①と塚穴古墳南側⑭の田畑では、埴輪になる可能性がある遺物を各々1片採集している。

種類 地点	土師器	須恵器	瓦器	陶器	磁器	染付け	サヌカ イト片	瓦類	備 考
1	11	1					1		円筒埴輪? 1
2	5			1			1		
3	2			3		2			
4	2						1		
5	1								
6	1								
7	3								
8	1			2		1			
9							1		

種別 地点	土師器	須恵器	瓦器	陶器	磁器	染付け	サヌカ イト片	瓦類	備 考
10	1			1			1		
11	1	2		1		1			
12				4		1			
13	1			2		1	2		
14	5	1							鉄釘 1
15	22			7		2		1	形象埴輪? 1
16	3						1		
17	9			2		3		1	不明土製品 1
18	4			4			1	3	
19	9					1	2		
20	7			1		1	1		
21	28	1		9		2	7	4	
22	6			1		1			
23	10		1	4					
24	8								
25	4		1	1	2		4		チャート片? 1
26	9			4			3		型作り土製品 1
27	1			1					
28	5								
29							1		
30	15			7			1		銅張り鉄板 1
31	2			2					
32	2			1					
33	8			9		1		1	
34	3			1					
35	1								
36	2								
37	2								
38	3			2		1			

第3表 C地区採集遺物一覧表

V ま と め

A・B・C地区のうち、採集遺物の極めて少ない地域はA地区の丘陵部だけで、他の地域ではまんべんなく遺物を採集することができた。

A地区では、古墳などの構築物が存在する可能性はほとんど考えられない。しかし当地区に棚原窯跡群があり、かつ平安末期から江戸時代にかけては千早や河内長野付近で盛んに木炭が焼かれていたことが文献で明らかにされていることなどから、調査地内での木炭窯の存在は十分考えられる。また①地点では、江戸時代の遺物を多量に採集しているが、採集地点が昔の田畑で遺物

が地表に露出していたことから、投棄された可能性が考えられた。

B地区は現在、今池と田畑となっているが、過去には谷状の自然地形が南西から北東方向に向けて伸びていたと思われ、灌漑用の溜池として今池を掘削造成した段階で田畑の造成が行われたものと考えられる。また採集した遺物は隣接するC地区北域よりも多かったが、これは田畑造成時にC地区北域の削り取った土砂を西側へ移動した結果によるものと予測される。

C地区は、遺跡の立地条件には最も適した緩やかな丘陵地形上にあり、遺物の採集量も最も多かった。北域ではB地区の所で述べたように土砂の削平に伴う遺物の移動が行われたと考えられ、その結果、遺物の量はあまり多くないが、埴輪と考えられる遺物も採集しており、古墳の存在した可能性も十分考えられる。また、今池南東付近は今回の調査で最も多く遺物を採集しており、遺物もナヌカイト片が比較的多くみられたことから、幅広い時期の遺跡が存在する可能性が極めて高い地域としてあげておきたい。

注 藤原 学 河内長野 大師山 関大文学部考古学研究第5冊 考察Ⅴ 木炭窯をめぐって 昭和52年3月



A地区
調査区端の水路付近



A地区
棚原竈跡群付近



A・B地区
今池付近

B地区・北城
C地区・北城
(A地区より)



B地区
(今池より)



塚穴古墳
(国道より)





C地区
塚六古墳北側付近
(国道より)



C地区
塚六古墳南側付近
(国道より)



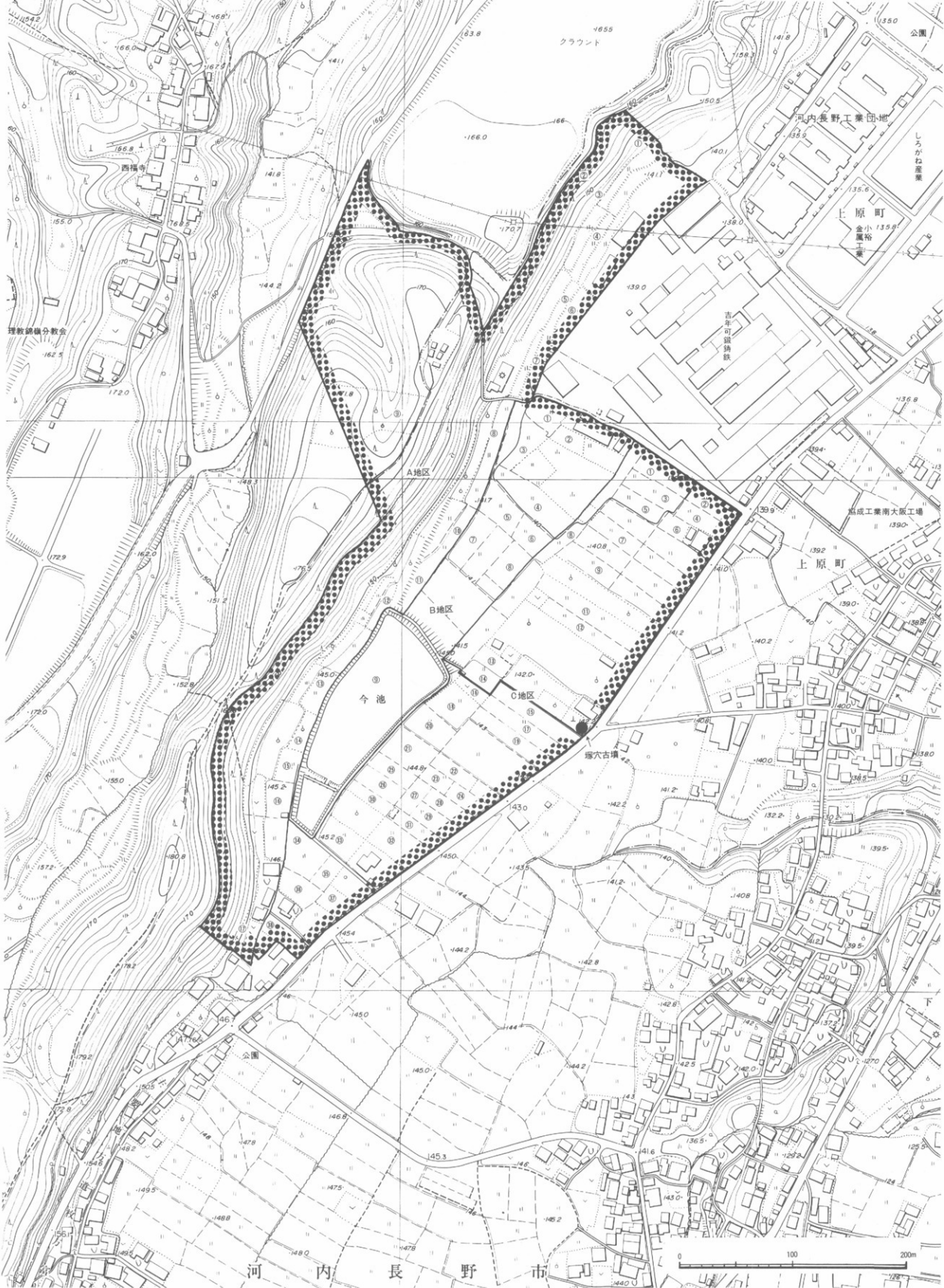
C地区
塚六古墳南側付近
(今池より)



A-1 地点採集遺物 (左上のみ瓦、他は陶磁器)



C-21 地域採集遺物 (上2列は土師器、3列目左側の5個はサヌカイト片、他は陶磁器など)



付図 遺物採集地点及び調査範囲図 (1/5000)

